平成24年度 内閣総理大臣賞 「專業所・地方公共団体等」分野 受賞 受賞者名

## 西北プライウッド株式会社

## 株式会社イトーキ

所在地

#### 宮城県石巻市、宮城県仙台市

受賞テーマ

Econifa +RE(エコニファ アールイー)~みどりの復興支援プロジェクト~ ※東日本大震災の被災木材を合板へ甦らせ、テーブル等の商品化を図りました。

### 1. 活動継続 あり

• 西北プライウッド及びイトーキのネットワークを通じて、幅広い普及・啓発活動を継続的に 実施している。それにより、全国のお客様よりご注文を頂き、3R推進の啓蒙・被災地域の 産業振興、沿岸林の再生に役立つ活動を展開中である。



## ↑ CO2固定化による 地球温暖化防止

不は光台成によりCO2を吸収し、炭素として体内に固定します。不利 建築物や実具に利用すれば、炭素は体内に固定され続けます。

## 02災害廃棄物を 『資源』として有効活用

Econifa+REの家具に使う【復興ボード】は、被災木材を原料に 廃棄物削減と資源の有効利用をしています。

## **入**海岸林の 再生プロジェクトを支援

Econifa+REの家具をご購入いただいた金額の一部は、被災地の多 海岸林を蘇らせるために、寄付されます。

## **負**4従来と同じ家具で 環境や地域に貢献できる

Econifa+REの家具は、芯材(パーティクルボード)に、東北復興支につたがみ「復興ボード」を使っています

#### 2. 活動の広がり あり

- 宮城県知事応接室応接テーブルに復興合板を使用した「Econifa+RE」製品が導入された実績などから、3R推進の取り組み・震災の風化防止の啓発活動に展開している。
- 「Econifa+RE」製品は報道等でも取り上げられ、全国の官公庁・企業・団体に納入先が広がっている。





宮城県知事応接室テーブル



仙台市宮城野図書館の書架

#### 3. 活動の進化 あり

復興合板を使用した「Econifa+RE」製品が、宮城県「グリーン購入促進条例」に基づく「宮 城県グリーン製品」の認定を受けた。宮城県内自治体・企業団体等に対する環境配慮・資源 循環製品の普及・拡大をより一層進めている。







Econifa が実現するサイクル

宮城県グリーン製品」の認定

#### 今後の計画 4.

- 平成26年3月末で岩手、宮城県内のガレキ処理は完了しており、復興材生産も平成26年 内、復興材家具製造は平成27年3月それぞれ終了している。 今後は被災地域における、最大の循環資源である木材を活用した家具の製造・販売を進める ことにより、3R推進・被災地の林業及び産業振興に寄与する取り組みを進めていく。
- 宮城県では、平成26年度より直接の被災者だけでなく、震災の影響に より生活・事業等に支障を来たしている方々への支援をさらに充実して いくと共に、再生に向けたインフラ整備などを充実させる復興計画(再 生期)をスタートさせた。 この計画に対して同社では、「宮城県産材 活用ソリューション」のパンフレット(右図参照)による広報も含めて 活動を推進していく。





デザイン性・機能性に優れた商品を開発すると共に、地域材活用の合板・パーティクルボード・ LVL(単板積層材)等の素材生産と合わせて、CLT(直交集成板)の普及促進を進めることで循環 資源である地域材活用を 促進していく。

## ninoco



# Passeggiata



## 【表彰概要】

同社は、東日本大震災の津波被害を受けた樹木をテーブル、スツールなどの家具に加工し、復興合板を使用した「復興合板家具」として販売している。

東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸部で津波をかぶった防風林や防潮林等の海岸林が発生した。 これら津波被害を受けた樹木は、仙台湾周辺だけでおよそ 1,750ha あり、いずれは立ち枯れ、倒木の危険 があるため、伐採が進んでいる。被災木を再利用せずにガレキにすると処理量の増加につながるため、こ れらを活用する方法が早急に必要となった。

そこで、合板製造企業である西北プライウッドと家具製造企業であるイトーキが連携し、西北プライウッドで被災木を原材料として調達し、合板に加工した後、イトーキでテーブル、スツールなどの家具に加工し、「復興合板家具」として販売する活動を 2011 年 10 月から行っている。

自身も被災した西北プライウッドは、2001 年にグループ会社のセイホク環境テクノセンターを設立し、「地球環境の保護」と「住環境の充実」を目指して資源循環システムを確立している。

同社は「木の300%活用 $\sim 1$ 本の価値を最大化 $\sim$ 」を実施しており、この精神のもと、東日本大震災で被災した海岸林についてもリサイクルに挑戦。試作を重ね、強度、品質面で JAS 規格と放射能試験の数値をクリアした。

復興合板家具には被災マツやスギを活用した合板を表す焼印を押してあり、家具としてオフィスや各種イベントの飲食ブース等で利用されることで、被災木利用への意識啓発につなげている。

2011年11月から「東日本大震災復興支援日比谷ライブ&マルシェ2011」、「エコプロダクト2011」、「みなと森と水の会議2012」などで使用した。さらに、家具として長く使うことにより二酸化炭素の固定化による地球温暖化防止にも貢献している。



エコプロダクツ 2011 飲食ブース



港区森と水会議 2012 ポスター展示

#### ■復興合板ができるまでの工程

家具の素材である復興合板は、宮城県沿岸などで材料入手、生産されている。



①伐採現場 (大量の被災松が発生)



②被災木を分別管理されている。



③被災木をスライス(切削)



④単板を積層加工し、合板に仕立てる



復興合板家具(写真は、テーブルの 天板、スツールの座板に被災木を利用)



復興合板家具を示す焼印部分の拡大

製品については、原木時、加工時の放射能測定を実施し、安全性を確認している。



原木入荷時の放射能測定



加工後の放射能測定